

# 令和6年度協力事業所 取組み内容報告

～協力事業所としての振り返りと、基礎の大切さ～



社会福祉法人 丹原福社会  
特別養護老人ホーム ル・ソレイユ  
ユニットリーダー 弓山瑠美



# ソレイユとしての トータルセーフティケアの位置づけ

---

# 施設の紹介

## ■法人名

社会福祉法人 丹原福祉会  
理事長 宮田 須

## ■運営事業所

- ・ 特別養護老人ホーム(50床)  
施設長 宮田 和代子
- ・ ショートステイ(20床)
- ・ デイサービス(定員30名)
- ・ 居宅介護支援事業所



社会福祉法人 丹原福祉会  
特別養護老人ホーム ル・ソレイユ

# オムツゼロの生活と 尊厳ある生活の提供

愛媛県で  
Only One  
のケア

Contents

TOP

法人概要

施設概要

介護保険につ  
いて

～施設理念～

"個"で創る 陽だまりの家庭が ここにはあります



愛媛県西条市の  
老人ホームです。  
を中心にケアを担  
はずしや、認知症

recommend  
ソレイユケア

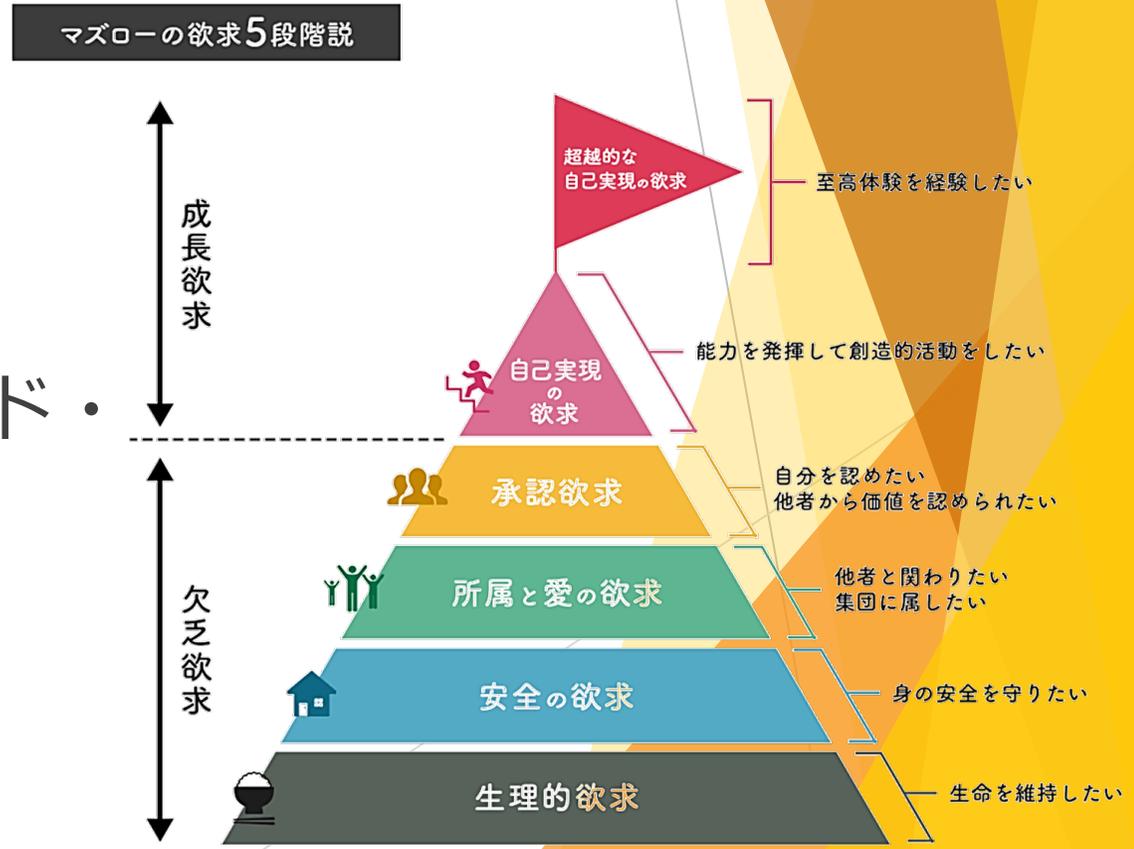


# ソレイユとしての トータルセーフティケアの位置づけ



▶ **目的**：ご利用者様が自分らしく、  
穏やかに過ごしていただく

▶ **手段**：リフトやスライディングボード・  
シートを使用した姿勢管理  
(トータルセーフティケア)



# モデル事業所として



## ▶ 施設の考えとして

- ・ ご利用者様の思い(夢の実現)を大切にしており**目的達成**のためには**トータルセーフティケア**が**不可欠**である。
- ・ **トータルセーフティケアの理念と活動を協力事業所として**広げていきたい。



# 施設の現状と変化について

---

# 施設の現状



協力事業所として毎年モデル事業を見学・・・

最新の福祉用具機器の充実や、ノーリフティングケア  
への意識の高さを感じる・・・

ソレイユと他モデル事業所との差を大きく感じ、  
**焦りを感じた**・・・

# 施設の現状



## ▶ ソレイユでの勤続年数の差

2階特養：平均勤続年数 **5.3年**

3階特養：平均勤続年数 **3.6年**

➤ **1.7年の差**

## ▶ 浸透の差

トータルセーフティケア(シートの使用やリフト類の使用)

2階特養：ご利用者様 ⇒ **20名中16名(80%)**

3階特養：ご利用者様 ⇒ **20名中 8名(40%)**

➤ **40%の差**

**施設としてノーリフティングケアに取り組み出した頃(2019年)のスタッフが減少し、意識の差が生まれていた・・・**



## 再び浸透に向けて・・・

焦る気持ちの中で、再び浸透させるためにはどうすればよいか考える・・・

全体研修や個別研修に参加させて頂き、**地道な基礎部分の積み重ねが大切**であると感じる。



トータルセーフティケアの基礎である、  
**「持ち上げないこと」と、「姿勢を整える」**  
から取り組みを始める



# 取組み内容と変化

## ▶ 「持ち上げないこと」

スライディングボードやスライディングシートの使用を周知  
日中帯などは時間が取れないこともあるため、夜勤の教育時などに、  
個別にスライディングボード・スライディングシートの使用方法に  
ついて教育を実施する。(移乗・上方移動)



シートを用いてのベット上移動や、スライディングボード、  
フレックスボードでの移乗が日常化している。



# 取組み内容と変化 ～持ち上げないこと～



シートを用いてのベット上移動



シートを用いての車椅子移乗





## 取組み内容と変化

### ▶ 「姿勢を整えること」

**食事やベットの臥床時、重心の流れをスタッフと確認**

マルチグローブを使用し、重さの流れを確認。

ポジショニング後にクッションを身体に沿わせ重さの流れを変える。

車いすの背もたれ部分や、座面のたわみの確認、改善。



**経験年数の浅いスタッフが、姿勢の見方を理解できた。**

**生活場面に合わせて「姿勢を整える」意識が芽生えた。**



# 取組み内容と変化 ～姿勢を整えること～



マルチグローブを使用し、  
ギャッチアップに背抜き



座面のたわみを解消し、  
座位が安定





# ご利用者様の変化について

---

# 基本情報

Y様 男性 80歳 要介護度3

## 【既往歴】

- ・ 2022年9月 アルツハイマー型認知症
- ・ 2024年5月 右股関節脱臼(3回目)で入院、整復術施行

## 【入所時の様子】

- ・ 8月に特養へ入居される。入居直後から大きな声を出されるため、他利用者様から距離をとり対応する。スタッフにもきつい言葉遣いをされ、怒鳴ることもみられる。  
ティルト式車いす使用
- ・ 排泄はトイレの訴えがあるも立位が難しく、パット交換。  
看護師にて摘便（入居前は浣腸にて排便）
- ・ 夜間は不眠傾向で、パットを外され失禁が多かった。



# 取組み内容

【Y様のニーズ(夢)】

家に帰りたい、家族に会いたい

目的



【ケアの方向性】

手段

## ▶ 信頼関係の構築

- ・ 認知症状の緩和のため、Y様の日々の希望に寄り添う
- ・ 面会を月2回、家族様への電話を週2回と本人様訴え時

## ▶ 排泄動作の向上

- ・ 医師に股関節の状態を確認し、スタンディングマシーンにてトイレでの排泄を開始



# トータルセーフティケアの実施

## 就寝時

ポジショニングの実施。  
クッションを身体に沿わせ、  
重さの流れを変えるよう周知。

## 座位時

座面の安定と、  
シーティングを実施。

## 排泄時

スタンディングマシーンを使用し  
トイレ介助。ご自身で踏ん張られ、  
足底がつき立位が可能に。

就寝時や座位時など、次の生活  
行為を意識して姿勢管理をする  
ことで、安定した排泄姿勢に  
つながった。



## 取り組み後の変化

- ▶ 朝食後にスタンディングマシーンを使用してトイレ介助  
⇒約4日間隔でトイレにて排便がみられるように。
- ▶ お風呂好きであったが、入居前は特殊浴槽使用であった。  
⇒姿勢管理とスタンディングマシーン使用で座位が安定し、  
**12月より、1対1の介助でリフト浴でゆっくり入浴可能に。**
- ▶ 正しくポジショニングをすることで、**夜間の不眠が解消し、**  
目覚められてもその後休まれることが多くなる。  
⇒日中帯にトイレでの排泄が可能となったため、**夜間パット外しも減少。**



## 取り組み後の変化

- ▶ 怒鳴ることが稀になり、介助後「ありがとう」と言ってくれるようになった。
- ▶ 表情が穏やかになり、**他利用者様との関係も良好**に。
- ▶ レクリエーションも**積極的に参加**される。



生活の場である特別養護老人ホームの中で、トータルセーフティケアに取り組み、QOLの向上につながった。



# トータルセーフティケアの実施





# 協力事業所としての振り返りと 来年度に向けての課題

---

# 協力事業所として参加して



- ▶ 焦りがあつた中で研修に参加させていただき、トータルセーフティケアの基礎である「持ち上げないこと」、「姿勢の見方・整え方」について学び直すことができ、**モチベーションを保ち続けることができた。**
- ▶ 介護は、食事・排泄・入浴の介助がイメージされることが多いが、**姿勢管理は24時間どの場面でも必要なこと**であり、**専門職として正しい知識と技術を身に付けサービスを提供**しなければいけないと強く思った。

# 課題



- ▶ 今年度取り組んだ内容を、来年度はユニットの目標として掲げ、**トータルセーフティケアについて浸透を図る**必要がある。
- ▶ 外国人スタッフへの教育については、**言葉より体験**してもらい、理解できるような工夫が必要。
- ▶ 今まで座位が保てていた方のレベル低下が見られるため、**アセスメントをして、その方の状態に合わせた介助方法の検討。**

# 課題



- ▶ 今年度取り組んだ内容を、来年度はユニットの目標として掲げ、**トータルセーフティケアについて浸透を図る**必要がある。
- ▶ 外国人スタッフへの教育については、**言葉より体験**してもらい、理解できるような工夫が必要。
- ▶ 今まで座位が保てていた方のレベル低下が見られるため、**アセスメントをして、その方の状態に合わせた介助方法の検討。**



**ご清聴ありがとうございました。**

**来年度も、生活の場である特別養護老人ホームの中で、トータル  
セーフティケアに取り組み、ご利用者様の夢の実現につなげます！**

